

(別記様式) 令和7年度 京都府立宇治支援学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)年間(計画段階・**実施段階**)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>◆教育理念「喜びはともにあること」のもと、教育目標「よりよく生きる力をはぐくむ」を実現するための各学部段階の教育に繋がりをもち、学校全体で進める。</p> <p>◆児童生徒が、地域社会に貢献し、地域社会で幸せに暮らすことができるよう、地域や保護者とともにより本校の教育を進める。</p> <p>◆京都府スーパーサポートセンター(以下SSC)の機能を生かし、各地域支援センターや各教育局、総合教育センター等と連携し京都府内全域の特別支援教育を進展する。</p>	<p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> Teams活用で校内情報共有とコミュニケーションを促進 防災WEEK・緊急対応訓練を計画的に実施 授業評価を工夫し「評価のポイント集」を作成共有 「うじライブラリー」整備や「うじシアター」で読書活動を推進 進路指導部と連携し、10カ所の実習先を新規確保 ケース会議や関係機関連携により、生活支援体制を強化 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> 自立活動の指導を充実させ、児童生徒の課題を明確化 防災教育と読書活動のさらなる推進 交流および共同学習を通じたインクルーシブ教育の推進 働きがいのある職場環境づくりの促進 授業におけるICT活用の推進 	<p>【学校経営】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「15周年 challenge UJI」~とにかくやってみよう~ 地域社会に貢献する学校経営と、地域とつながり共に育ち合う学校づくりの推進 特別支援学校教職員として、専門性、人権意識、危機管理意識、等の資質向上を目指した人材の育成 HP等を活用した学校情報の積極的発信 <p>【教育活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童生徒一人ひとりの学びや成長を的確に捉え、その可能性を最大限に引き出すための授業づくりの推進 全校授業実践でのICT活用の推進 実際に動ける防災教育、避難訓練へのさらなる充実 うじライブラリーの活用と読書活動の充実 交流及び共同学習の充実、インクルーシブ教育の推進

	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題		
組織運営	適正で風通しのいい学校経営の推進	・15周年を契機とした児童生徒・教職員・地域住民が一体となった共生社会の発展に向けた取組の推進	B	15周年プロジェクトが中心となり、教職員の「やってみよう」を出発点に希望制校内研修会の実施や教育活動の工夫を図ることができた。ICT活用により事務室を含めた教職員間での効率的な情報共有が図られた。一方で、双方向のやりとりが必要な情報や重要度・方向性の共有は不十分さがあリ発信方法の工夫が今後の課題である。参加型の人権研修による多様性理解、職員室の座席移動による環境整備等により、働きやすい職場環境づくりを推進した。		
		・各学部等による学校経営方針を具現化するマネジメントの実施	B			
		・学校運営に関する情報を全校・各学部・教職員全体で円滑に共有	C			
		・整理整頓の徹底と物品管理の強化による、快適で働きやすい職場環境の推進。	A			
		・「いじめアンケート」「いきすぎた指導アンケート」の実施、人権研修の実施等による児童生徒や教員の人権を尊重する意識の醸成	B			
		・教職員と連携した、効率的、効果的な事務室の運営	A			
	人が育つ研修会等の計画的推進	・初任者を中心とした教員への計画的な研修の実施と、研究授業を通じた教員の力量向上による、チームで取り組む授業改善の推進	A		B	
		・スクールカウンセラー、まなびアドバイザー等を活用した研修会の実施	B			
	地域とともにある学校経営の推進	・全校および各学部でのHPを活用した情報発信の充実と運用の強化	A		B	速やかなHP掲載により特色ある取組を情報発信できた。学校運営協議会において、進路指導やインクルーシブな教育環境づくりについて熟議を図り新たな視点やアイデアをいただいた。
		・保護者や地域の声を基にした教育の充実	B			
		・学校運営協議会を活用した外部評価の実施	B			
	安心安全を具体化する取組の推進	・児童生徒が安心、安全に学校生活を送れる取組の確実な実施(通学、給食、保健、衛生、アレルギー対応等)	C		C	「うじ防災WEEK」を設定し、年間を通じた計画的、継続的な訓練や警察連携による緊急時対応訓練を実施し、行動力の向上を図った。一方で、日常の安心・安全を徹底するためのチェック
・地震対応訓練や避難訓練を軸とした日常での防災意識と行動力の向上と緊急対応訓練(年3回)を通じた危機対応能力の向上。		A				

		・情報共有とヒヤリハット事象共有による、安全な医療的ケアの強化	B		体制や情報共有が課題であった。
	SSCによる府内の地域や学校の支援力・指導力向上の支援	・府専門家チーム委員を効果的に活用した相談支援、研修支援の充実	A	B	専門家チーム委員によるコンサルテーション事業により、各地域支援センターの課題に応じたセンター支援を行うことができた。
		・SSCの役割の明確化と、高等学校支援における新たなシステム作り	B		
	地域と連携した支援力向上に向けた組織的な取組の推進	・市教委等と連携した組織への効果的なアプローチの充実	B	B	出前授業をスタートさせ、支援を要する児童生徒が在籍する学級、学年全体の多様性理解を促す取組を展開することができた。
		・高等学校やSSCと連携した学校コンサルテーションの実施	B		
教育課程 学習指導	授業改善の推進	・各学部の教育課程改善による学びの連続性の強化と教育課程検討会議を中心としたカリキュラム・マネジメントの推進	B	A	授業改善推進会議が中心となり「国語科」の授業研究を進め、12月公開研究会において全学級の授業を公開し外部評価を受ける機会を得た。昼休みの読み聞かせの取組実施、蔵書の充実等を進め「うじライブラリー」を活用した読書活動が進んだ。また、授業におけるICT活用、指導力向上に向けた教材共有等、教職員のICT活用についてはさらなる強化が必要である。AI研修を実施したが、働き方改革の視点からも授え業づくりや業務におけるDXが課題である。
		・指導と評価の一体化による児童生徒のよりよく生きる力をはぐくむ授業作り、授業改善と全校授業公開の実施	A		
		・ICTを活用した授業の充実と情報発信の強化	B		
		・社会とつながる地域学習の積極的な実施	B		
		・インクルーシブ社会の実現に向けた居住地校交流及び学校間交流等の充実	B		
		・「うじライブラリー」を活用した読書活動の充実	A		
		・流れ図等を活用した実態把握と課題の明確化による自立活動の指導	B		
	個々の生徒に応じた希望進路の実現	・進路指導部を中心とした、総括主事・コース長・学級担任と連携した進路指導の実施	C	B	生徒の希望を踏まえた実習先の開拓と実習指導による進路実現を目指した。一方で、小学部からの12年間の系統的なキャリア発達支援、高等部での実習を節目とした継続的な進路指導や保護者への発信等、全教員による組織的な取組が今後の課題である。
		・希望進路の実現に向けた新規実習先・就労先企業の開拓	A		
		・希望進路の実現に向けた保護者への情報提供と研修会の実施	C		
	学習の土台となる生活基盤の確立にむけた修学支援の実施	・児童生徒の生活基盤確立にむけた適切な実態把握とケース会議の実施	A	B	修学支援担当や生徒指導担当が中心となり、学部、自立活動担当との連携や関係機関連携も含めてチーム支援を進めることができた。
		・生徒指導対応委員会と各学部とが連携した、不登校児童生徒の把握と適切な支援の実施	B		

学校関係者評価委員会による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導は小学部から取り組むもの。どうなりたいか、どういう大人になりたいか、児童生徒がイメージを持つことが大切。 ・開校15周年となり卒業生も多く、その力を活かすこともよい。 ・今年度の15周年プロジェクトの成果をどのように次年度以降へ活かしていくのか。また、次年度以降のプロジェクトの在り方が大切。
-----------------	---

次年度にむけた改善の方向性	<p>【学び合い高め合う教職員の育成・全員参加型の学校運営の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一体感ある学校運営、役割分担の明確化、組織的に指導を推進するためにDXによる情報共有や効率化を促進する。 ○児童生徒が安心、安全に学校生活を送るために日常業務における危機管理意識の徹底と自覚的な行動力の向上を図る。 ○特別支援学校教職員（高度専門職）として指導力の向上を図るために、参加型、自主的な研修、研究を重視する。 ○進路指導は本校教育の総和と捉えて、児童生徒の可能性を引き出す視点を重視したキャリア発達支援や組織的な進路指導を具体化する。 ○地域の特別支援教育のセンターとしての役割を果たすために、自立活動の指導、ICT利活用、知的障害学習指導要領や教育課程について公開研究会やホームページ活用等をとおして、実際の授業や指導内容の情報発信を一層促進する。 ○児童生徒が地域社会に参加し、共に学び育つために継続的、持続可能な居住地校交流及び学校間交流を追求する。
---------------	---